

VOCA

THE VISION OF CONTEMPORARY ART 2018

田幡浩一は油彩、ドローイング、コラージュ、彫像、立体など様々な作品を制作しており、それぞれの媒体の特徴を生かした表現を行っている。ドローイングを使った映像作品に典型的に表れているように、メディアの違いを超えて、一貫して絵画的な、あるいは平面に関する問題を追求しているのが今回展示した。

描くモチーフとしては植物、虫、鳥、食物、静物など身の回りのものを取り上げることが多く、今回もドイツ在住の田幡にとって馴染みのホワイタスバラを描いている。ここでは画面が分断され、縦に走る線の左右でイメージのズレが生じている。元々のアイデアは一度支持体を分けた絵をつなぎ合わせたらどうなるのかという発想からきており、支持体やイメージなどを作家がどうコントロールするかについての考察であった。そこから発展し、本作では両面を分割し、上下にずらして描いたものを四角い画面に戻して完成させている。こうした操作を行うことで、意識や時間、空間など様々なズレが顕在化されてくる。特に、ずらしたことではみ出していた画面の外とのつながりを作り、戻したことで絵の外側の空間を取り込んだことにもなり、画面外の空間を強く意識させる。それと同時に、自明のものとして意識に上ることもない、四角い画面で絵画が成り立っていることの意味についても考えさせる。

30×40cmという非常に小さな作品を、VOCA 展の観覧サイズいっぱいの壁面に展示するのが作家の指示である。この小さな作品がどこまでの空間を支配しうるのか、そういった挑戦でもある。

関連 展 上野の森美術館 李烈展

one way or another (white squares)
one way or another (white squares)

油彩、11.8×
Oil on panel
31.8×49.0cm